

本店				
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	4・5・6F	TEL.03(5645)5050 (大代表) FAX.03(5645)5051	
札幌支店				
〒004-0041	札幌市厚別区大谷地東4-2-20	TEL.011(801)3611(代) FAX.011(801)3633	旭川営業所 TEL.0166(48)3700 函館営業所 TEL.0138(35)7010 道東営業所 TEL.0155(24)5600	
東北支店				
〒982-0036	仙台市太白区富沢南1-18-8	TEL.022(243)4439(代) FAX.022(243)4438	青森営業所 TEL.017(773)7275 盛岡営業所 TEL.019(606)6120 三陸出張所 TEL.0193(27)8157 秋田営業所 TEL.018(863)3035 山形営業所 TEL.023(641)5988 福島営業所 TEL.024(536)1800	
東京支店				
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	2 F	TEL.03(5645)5100(代) FAX.03(5645)5107	群馬営業所 TEL.027(253)2305 宇都宮営業所 TEL.028(637)3567 水戸営業所 TEL.029(246)2700 埼玉営業所 TEL.048(647)6981 千葉営業所 TEL.043(225)8023 横浜営業所 TEL.045(226)4820 長野営業所 TEL.026(228)6761
北陸支店				
〒950-0963	新潟市中央区南出来島1-4-4	TEL.025(383)8700 (代) FAX.025(383)8701	富山営業所 TEL.076(452)2766 金沢営業所 TEL.076(240)0111 福井営業所 TEL.0776(38)6499 佐渡営業所 TEL.0259(55)2332 上越営業所 TEL.025(544)4750	
名古屋支店				
〒460-0008	名古屋市中区栄1-16-6	TEL.052(202)3211 (代) FAX.052(202)3212	岐阜営業所 TEL.058(275)0206 静岡営業所 TEL.054(202)2090 三重営業所 TEL.059(225)6575	
大阪支店				
〒541-0048	大阪市中央区瓦町2-2-7	TEL.06(6232)2109 (代) FAX.06(6232)2108	京滋営業所 TEL.075(646)5890 神戸営業所 TEL.078(577)2570 奈和営業所 TEL.0736(69)1070 高松営業所 TEL.087(815)0822 松山営業所 TEL.089(998)2221 高知営業所 TEL.088(861)4171	
広島支店				
〒730-0803	広島市中区広瀬北町3-11	TEL.082(231)2109(代) FAX.082(231)2310	鳥取営業所 TEL.0857(39)8050 松江営業所 TEL.0852(21)7317 岡山営業所 TEL.086(226)1429 山口営業所 TEL.083(925)4258	
九州支店				
〒812-0027	福岡市博多区下川端町1-3	TEL.092(271)6461(代) FAX.092(271)6482	佐賀営業所 TEL.0952(37)6912 長崎営業所 TEL.0957(49)9320 熊本営業所 TEL.096(382)1639 大分営業所 TEL.097(552)4222 宮崎営業所 TEL.0985(23)1406 鹿児島営業所 TEL.099(258)3867 沖縄営業所 TEL.098(875)4400	
直轄グラウト部				
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	2 F	TEL.03(5645)5111(代) FAX.03(5645)5112	
海外事業部				
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	5 F	TEL.03(5645)5055(代) FAX.03(5645)5056	
ジャカルタ 駐在員事務所（インドネシア共和国）				
	GENERALI TOWER G, 16/F GRAND RUBINA BUSINESS PARK at Rasuna Epicentrum Jl. HR Rasuna Said, Jakarta 12940, Indonesia	TEL.+62-21(2994)1582 FAX.+62-21(2994)1991		

グループ会社

	緑興産株式会社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-10-6 4F TEL.03(5645)5150(代) FAX.03(5645)5153		島根アースエンジニアリング株式会社 〒690-0055 島根県松江市津田町310-1 2F TEL.0852(21)7337 FAX.0852(21)7353
	PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA GENERALI TOWER GRAND RUBINA BUSINESS PARK 16th Floor Unit G, Kawasan Rasuna Epicentrum Jl. HR Rasuna Said, Jakarta 12940, Indonesia TEL.62-21-2994-1582 FAX.62-21-2994-1991		山口アースエンジニアリング株式会社 〒753-0015 山口県山口市平野2-3-13 TEL.083(901)1050 FAX.083(925)5166
			愛媛アースエンジニアリング株式会社 〒790-0951 愛媛県松山市天山2-6-12 2F TEL.089(998)8881

CSR報告書

NITTOC

2020



「守る」技術で、つながる、未来へ。



もくじ

■ 社長メッセージ	2
■ 会社概要	3
■ 経営目標(中期経営計画)	4
■ コーポレート・ガバナンス	5
■ コンプライアンス	6
■ 人材育成・就労制度	7
■ ICT活用・機械化による生産性向上	11
■ 安全衛生活動・安全教育	13
■ SDGsへの取組み	15
■ 現場紹介	17
■ 海外事業	21
■ 環境活動	25
■ 社会貢献	27

■ 編集にあたって

対象期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月

※ただし当該期間外の実績も一部掲載しています。

対象範囲：当社とグループ会社の活動

発行時期：2020 年 6 月

□ 問い合わせ先 □

日特建設株式会社 経営戦略本部 経営企画部 広報課

〒103-0004

東京都中央区東日本橋 3-10-6 Daiwa 東日本橋ビル 4・5・6F

TEL 03-5645-5080 / FAX 03-5645-5083

ホームページ内「お問い合わせ」フォーム (<https://www.nittoc.co.jp/contact/index.html>) からの
お問い合わせが便利です。

ご意見、ご感想をお寄せください。当社の活動や報告書の改善に役立たせていただきます。

社長メッセージ 〇●〇



日特建設は、1947 年（昭和 22 年）、ダム基礎を創業工種として始まり 70 有余年、環境防災、維持補修、都市再生分野などの専門工事に特化した地質に強い専門会社として評価をいただいております。

昨今、日本では地震や台風・豪雨などの自然災害が頻発しており、建設業界には国土の強靱化、減災化への対応が求められています。また働き方改革に伴う生産性向上、将来を担う人材育成も建設業界の大きな課題となっています。

その中で弊社は 2020 年度より新たな中期経営計画 2020(2020 年度～2022 年度)をスタートさせました。この中で、様々な課題の解決のために組織を新たにし、新技術・施工の自動化・省力化などに向けた研究開発の強化、協力業者も含めた技術者の育成、品質管理強化などに取り組んでまいります。

当社は、経営理念「基礎工事における総合技術力と効率的な経営で、安全・安心な国土造りに貢献する会社」のもと、建設業を営む会社としての社会的責任を果たしていくなかで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

当社の主な業務は、インフラの整備工事、防災工事、環境緑化工事など、国土の安全・安心にかかわる工事です。また会社の使命には、コンプライアンス、社会貢献、環境活動、顧客満足・投資家満足・従業員満足の向上など、多くの事柄があります。これら社会のさまざまな要請や期待に応えること、つまりそれは C S R(企業の社会的責任)の履行を前提としています。企業に求められる使命や対象者は、工事の品質や安全管理やそれを提供するお客様だけではなく、工事の周辺にお住まいの方々や施工したインフラを使用していただく方々など多岐に及びます。

当社は、経営理念である「安全・安心な国土造りに貢献する会社」、「基礎工事における総合技術力と効率的な経営」、「信頼される技術力に培われた、環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート」を目指す建設業を営む会社として、社会的責任を果たしていく所存でございます。今後ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 永井 典久

会社概要

〇●〇

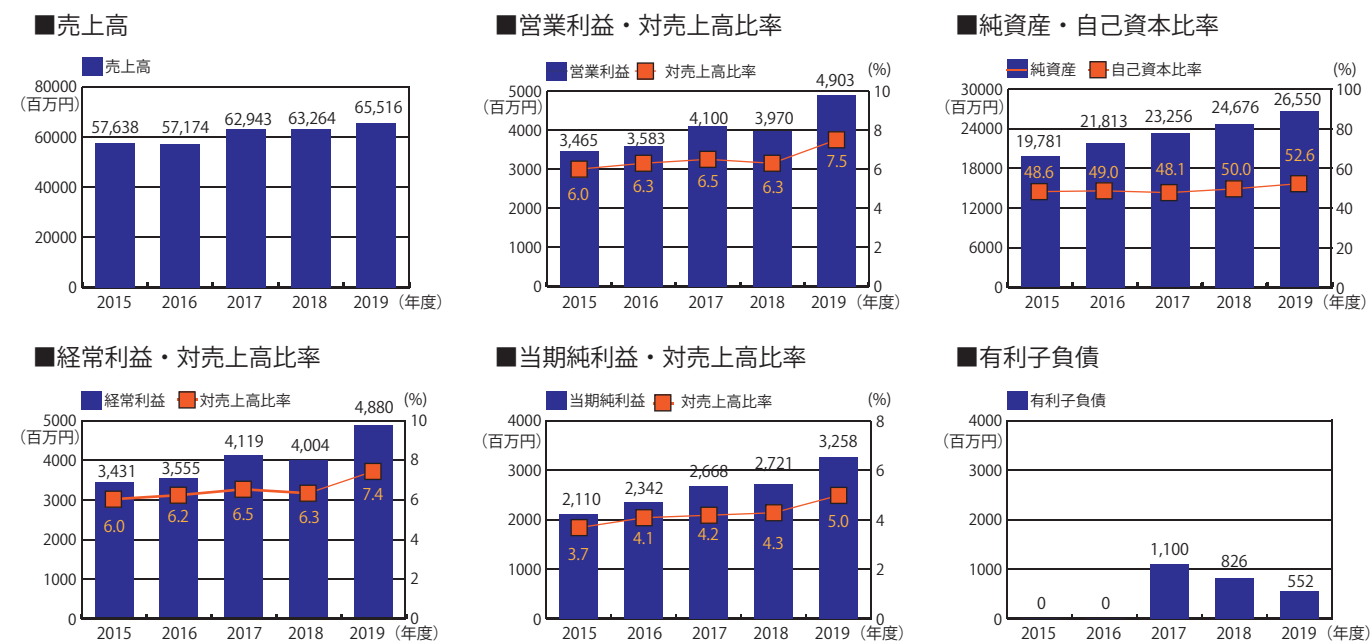
● 会社概要 2020年3月31日現在

■商号	日特建設株式会社 NITTOC CONSTRUCTION CO.,LTD	■営業種目	総合建設業 ・土木・基礎 ・地質コンサルタント
■本店	東京都中央区東日本橋 3-10-6	■許可	建設業許可 特定建設業 国土交通大臣（特-28）第 211 号
■設立	1947 年（昭和 22 年）12 月 17 日	■登録	建設コンサルタント登録 登録番号 建 01 第 15 号 測量業者登録 登録番号 第（15）-435 号 地質調査業者登録 登録番号 質 29 第 2 号
■資本	発行済株式総数 43,919 千株 資本金 60 億円 東京証券取引所 第一部上場	■免許	宅地建物取引業 東京都知事（3）第 91766 号
■代表者	代表取締役社長 永井 典久	■指定	土壤汚染調査機関指定業者 指定番号 環 2003-8-1002
■社員数	建設事業 1,195 名 （連結）その他の事業 10 名 計 1,205 名	■事業所	本店（東京） 支店 / 札幌・東北・東京・北陸・名古屋 ・大阪・広島・九州 ・直轄グラウト部・海外事業部

※社員数は、有期労働契約に基づく常用労働者 255 人を含めて掲載しております。

■業績（連結）	売上高 655 億円
	営業利益 49 億円
	経常利益 48 億円
	親会社株主に帰属する当期純利益 32 億円

● 業績（連結） 2020年3月31日現在



※当期純利益は、2015 年度より、連結損益計算上「親会社株主に帰属する当期純利益」と表示

経営目標（中期経営計画）

〇●〇

● 経営目標

2020 年 5 月 8 日に中期経営計画 2020（2020～2022 年度）を公表しました。2020 年度からの 3 年間で、「人的資源の確保と育成をし、生産性向上を図り成長する期間」と位置づけ、下記の目標達成に向け全役職員一丸となって実行してまいります。

1. 中期経営計画（3 カ年）の位置付け
「Next Challenge Stage II」
人的資源の確保と育成をし、生産性向上を図り成長する期間

2. 事業戦略
働き方改革の実現を軸に働き手の確保と生産性の向上を図ると共に、顧客信頼を確保し、市場の期待に応え事業拡大を図る。同時に長期的な建設市場の変化を見据え、維持補修分野における技術力・営業力を強化し、優位性のある技術開発でシェアの拡大を目指す。

3. 2020 年度 経営理念・経営方針

1) 経営理念

・使命 (Mission)
安全・安心な国土造りに貢献する会社

・価値観 (Value)
基礎工事における総合技術力と効率的な経営

・あるべき姿 (Vision)
信頼される技術力に培われた、
環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート

2). 経営方針

- ①. 内部統制（コンプライアンス、リスク管理）の強化
- ②. 安全と職場環境を重視した経営
- ③. 重要施策の実現
- ④. 収益性の維持と生産性の向上
- ⑤. キャッシュ・フロー重視の経営
- ⑥. 人材の確保と育成

4. 中期経営計画 2020（2020 年度～2022 年度） 経営目標

1) 営業面の目標（2022 年度）

- ① 地盤改良工事拡大（完成工事高 200 億円）
- ② 法面補修工事拡大（完成工事高 100 億円）

2) 業績面の目標

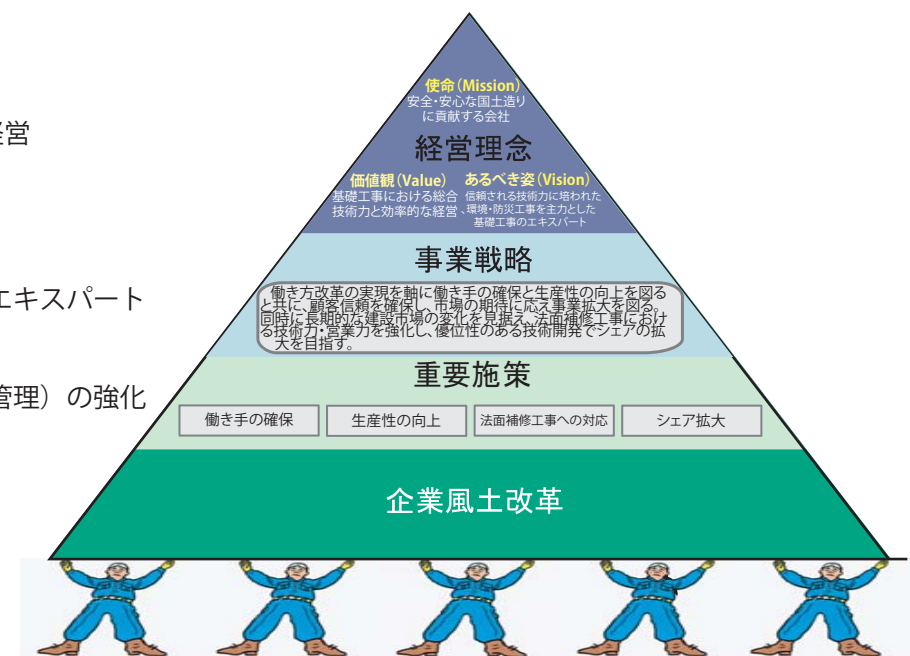
- ① 営業利益 3 カ年平均：44 億円以上
- ② 営業利益率 3 カ年平均：6.0%以上

3) 財務面の指標（2022 年度）

- ① 自己資本比率 52%以上
- ② キャッシュ・フロー プラス

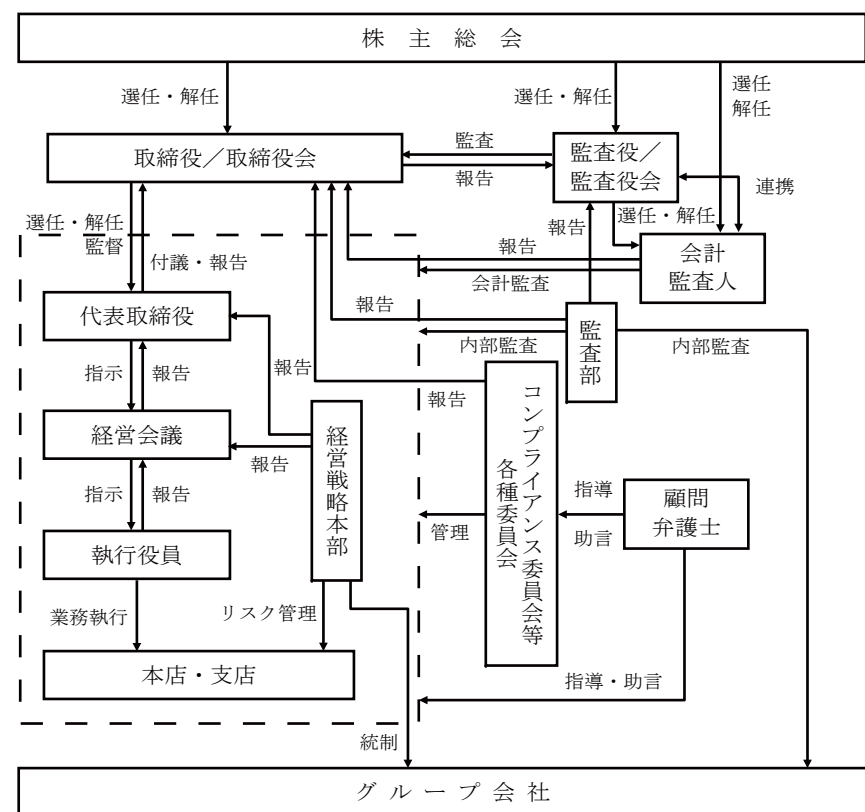
4) 株主還元の目標

- ① 配当性向 40%以上



● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業活動を支えるすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ各種法規範のみならず、社内規範や社会の良識・常識も遵守した企業倫理の重要性を認識するとともに、企業の継続的な発展と、社会的信用の獲得、また、反社会的集団に対する不当利益供与の根絶等、経営の透明性、健全性を高め、社会基盤の整備に貢献できる組織の構築をコーポレート・ガバナンスに関する基本的な方針としております。



主な組織の機能

・取締役会

取締役会は、経営の基本方針ならびに執行方針について審議決定するとともに、業務執行に関する重要事項について決定もしくは承認をなすものとする。また、社外取締役の客観的な立場から意見を受けることにより、取締役会の実効性の向上に努めている。開催は、原則として毎月1回開催し、必要がある場合は随時開催する。

・監査役会

監査役会は、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行い、又は決議をする。ただし、各監査役の権限の行使を妨げることはできない。開催は、四半期に1回開催し、必要あるときは随時開催する。

・コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、コンプライアンスを社内に定着させていくための具体的な実践計画であるコンプライアンス・プログラムに定める個別課題について協議・決定を行うとともに、コンプライアンス・プログラムの進捗状況を管理する。開催は年4回以上行う。

日特建設では、コンプライアンスは重要な社会的責任であり企業存続の基盤であると考え、「行動規範 - コンプライアンス基本方針」に則り、法令や社内外のルールの遵守を徹底してまいります。そのためにコンプライアンス重視の業務体制の構築はもちろん、社員に対するコンプライアンス研修にも力を入れております。

● 行動規範 - コンプライアンス基本方針

私たちは、事業を営む者として企業の社会的責任を自覚し、法令や社内外のルールおよびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって、以下の通り行動します。

- 1 私たちは、社是である「日々是進歩」、および社訓である「安全第一、信用確立、技術発展」を常に踏まえた企業活動を行い、経済や社会の発展に貢献します。
- 2 私たちは、法令や社内ルールを遵守するだけでなく、企業倫理に基づいた企業人として誇れる行動を通じて、社会からの信頼に応えるように努めます。
- 3 私たちは、「開かれた企業」として適時・適切に企業情報の提供を行なうとともにステークホルダーをはじめとする社会からの声に耳を傾け企業活動に反映させるように努めます。
- 4 私たちは、環境問題への取組は企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 5 私たちは、地域で働く企業人として地域との融和に努め、地域活動にも自主的に参加し、地域社会に貢献できるように努めます。
- 6 私たちは、お客様の要望に誠実に応えるとともに、お客様の目線でものを考え、お客様本位の対応を行います。
- 7 私たちは、取引先と透明性の高い公正で健全な関係を築き上げ、相互の繁栄を考えた取引を行なうように努めます。
- 8 私たちは、誠実かつ健全な企業活動を継続することで、社会から信頼される企業となるよう努めます。
- 9 私たちは、従業員の人權を尊重し、個性を認め合い、十分なコミュニケーションを心掛けることで、安全で快適な職場を築きます。
- 10 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体には厳しく対処します。

● コンプライアンスの徹底、教育

1. コンプライアンスの徹底

行動規範を定め、各種会議で随時一人ひとりが確認し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

2. コンプライアンス教育

(1) 研修会

当社では年間を通じて様々な会議で、コンプライアンス研修を行っております。

例：工事部長・工務課長研修、事務管理部課長研修、
コンプライアンス・リスク管理推進責任者研修



コンプライアンス・リスク管理推進責任者研修

(2) 社内報、e-ラーニング、月例会議を通じた教育

毎月、社内報に様々な具体例を紹介したコンプライアンス講座を

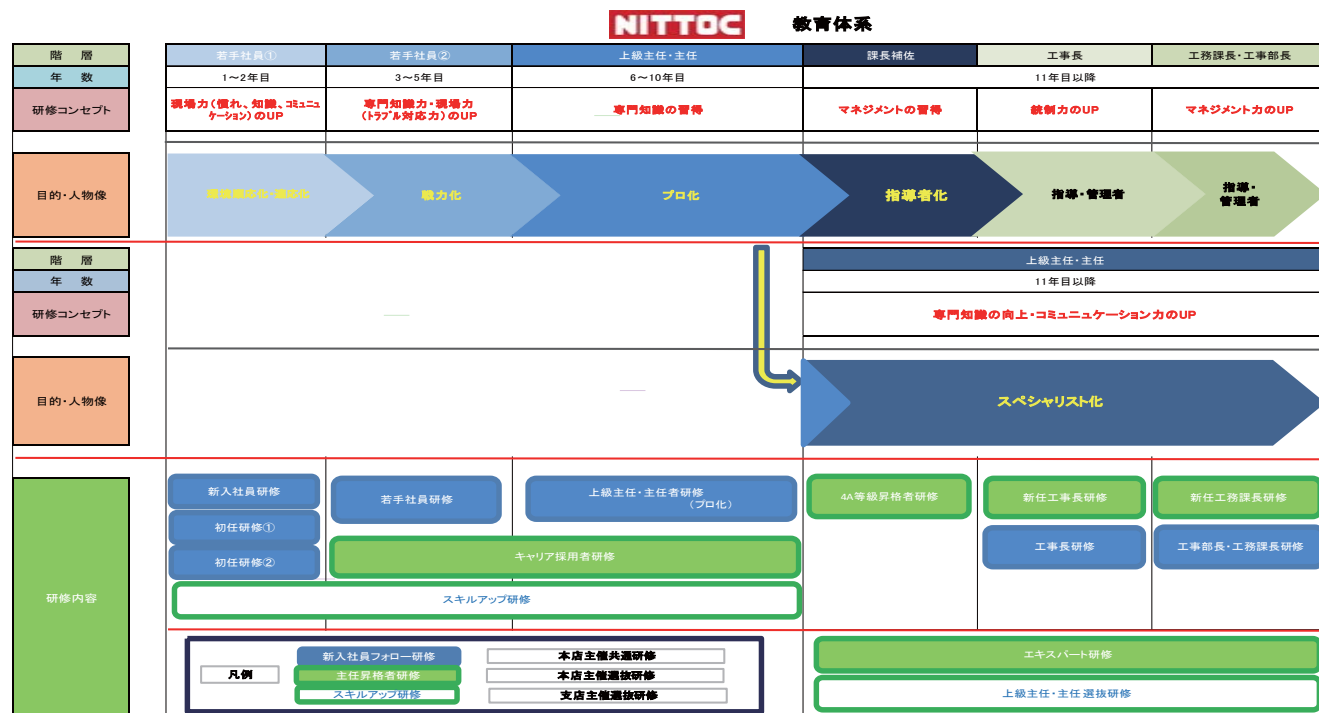
掲載しています。またe-ラーニングでの定期的な教育に加え、月初に本店・各支店で役員が会社の重要事項を説明する月例会議でも行動規範を確認するなど、社員一人ひとりのコンプライアンス意識向上、教育を図っています。

人材育成・就労制度-1



● 教育制度 社員の可能性を引き出すため、階層ごとに教育制度を設けています。

私たちは下表のコンセプトのもと、未来の夢のため、将来を見据えた教育制度を整えています。さらに社員一人ひとりの気持ちを大切に、個性を伸ばしていくことで、優れた専門性とさまざまなものごとに興味を持つ、多様性を併せ持った人物への成長を促していきます。



● 主な研修の様子

主な研修の様子をご紹介します。



新入社員研修



営業所長研修



工事部長・工務課長研修



事務管理部課長研修

● 就労制度 ライフイベントに合わせ、様々な就労制度を設けています。

各種の就労制度を取り入れ、社員に働きやすい職場を目指しています。

例：育児・介護休暇、休業、短時間勤務、自己啓発研修(LGAT)・ボランティア活動休暇等

育児休暇等取得社員の声



育児休暇を取得し、今年度から復職する予定です。出産前までは、技術職として自分だけの時間感覚で働いてきたため、今後どのような働き方ができるのか想像できない部分もあります。また、実家などに頼れる環境ではないため不安もありますが、時短勤務制度などを有効に使いながら調整できればと考えています。育児をしながらの仕事は、想像以上に大変と聞くことも多いのですが、「待っているよ」という職場の方々の声に励まされ、頑張っていきたいと思っています。

名古屋支店 藤代 祥子

● 社内表彰制度 一人ひとりが輝く会社に

社内の活性化と社員のモチベーション向上を目指し、様々な表彰制度を設けています。

社長賞受賞社員の声



入社当時、当社のキャッチフレーズで掲げていた「プロの仕事」を目指し、推進・シールド・地盤改良機のオペレーターとして、直接作業に携わる事により体感で現場力を身に着ける事が出来ました。自身の成長は、日特建設・協力業者の多くの皆様のご指導とお力添えのおかげと感謝しております。今後も社会に貢献する会社の一員として職務に努めます

九州支店 徳永龍己

● 資格取得支援 社員の資格取得のために、資格手当の支給など様々な支援をしています。

事業を行っていく上で必要な資格について、各種の支援を行っています。特に、現場代理人を務めるために必要な1級土木施工管理技士については、研修や論文添削なども行っています。また、技術士については、日特建設技術士会が支援の中心となり支援を行っています。また、資格取得者には資格手当を支給し、社員の資格獲得へのモチベーションを高める働きをしています。

	手当を支給する資格(取得一時金を含む)
技術系	博士(工学、理学)、技術士、1級土木施工管理技士・2級土木施工管理技士(土木、薬液注入)、1級・2級建築士、1級・2級建築施工管理技士、1級・2級造園施工管理技士、1級・2級管工事施工管理技士、1級・2級建設機械施工技士、1級・2級電気工事施工管理技士、第1・第2・第3種電気主任技術者、第1種・第2種電気工事士、甲種・乙種火薬取扱保安責任者、測量士、測量士補、地質調査技士、基礎施工士、地すべり防止工事士、第1・第2種下水道技術検定合格者、推進工事技士、コンクリート診断士、VEリーダー、技能士(1級・2級さく井)、自動車整備士(1級・2級・3級)、甲種・乙種危険物取扱者、労働安全・衛生コンサルタント、公害防止管理者、公害防止主任管理者、グランドアンカー施工士、建築積算士、工事管理者(新幹線・在来線)、ジェットグラウト技士、のり面施工管理技術者、土壌汚染調査技術管理者、水産工学技士(水産土木部門)、一級舗装施工管理技術者、ビルコンサルティングマネージャー、ダム工事総括管理技術者、小規模ダム工事統括管理者
事務系	公認会計士、公認会計士補、税理士、弁理士、司法書士、不動産鑑定士、不動産鑑定士補、宅地建物取引士、土地家屋調査士、1級・2級建設業経理士、システム監査技術者、ITストラテジスト(システムアナリスト)、システムアーキテクト(アプリケーションエンジニア)、プロジェクトマネージャ、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、ITサービスマネージャ、社会保険労務士、衛生管理者、応用情報技術者(第1種情報処理技術者・ソフトウェア開発技術者)、3級建設業経理事務士、行政書士、基本情報技術者(第2種情報処理技術者)、ITパスポート(初級システムアドミニストレーター)、1級簿記検定

● 人材育成・職場環境改善への取り組み 人材育成・働きやすい職場環境の整備を進めています。

日特建設では、人材育成と社員の働きやすい職場環境作りを行っています。その中で中期経営計画2020(2020～2022年度)の中で、重要施策として、人的資源の確保と育成に取り組み、現業社員(キャリア採用者を含む)の採用増員などに取り組みます。

1.採用の多様化

- ・女性技術者、高卒技術者、外国人技術者、理系以外の学部採用拡大
- ・通年を通して、地域限定社員を希望する転職社員の積極採用

2.採用(広報)活動の強化

- ・ITと組織を活用した時間・場所にとらわれない採用活動を強化
- ・若手社員の採用活動への関与強化による、ミスマッチの防止

3.魅力ある職場環境の整備

- ・独身寮等の福利厚生面の拡充
- ・採用の多様化に応える教育研修制度

4.若手社員のフォロー強化

- ・若手社員の配置ルールにより無理のない社員教育を実施
- ・人事(採用担当)面談によるギャップ・ミスマッチのフォロー
- ・教育担当者(ブラザー)制度によるフォロー

5.職場環境の整備(ワークライフバランスの充実)

- ・時間外労働時間の削減
- ・プライバシーの確保(寮、宿舍の完全ワンルーム化)
- ・現場終了時の休暇取得促進と計画的な長期休暇の取得年3回(GW・夏季・年末年始) + 1回の長期休暇制度
- ・ライフイベントに応じた柔軟な働き方(結婚・出産・子育て・介護時の働く場所・時間)

6.教育研修制度のさらなる強化

- ・キャリアプランに基づく研修体系の整備
- ・自己成長感、自己重要感、自己充実感を醸成する環境の強化

7.当計画期間中の時間外労働時間の目標

- ・現場終了時の代休の取得～有給取得した計画的な長期休暇の所得
- ・有給休暇取得の奨励

● 研修・開発拠点 人材育成と技術開発の強化を進めてまいります。

1. 蓮田総合センター

人材育成と技術開発強化のための施設 蓮田総合センター

この施設は「人材育成」と「技術開発」を強化する拠点となります。施設は人材育成のための研修施設や技術開発のための研究開発室をはじめ、研修生のための宿泊施設、寮施設を備えています。また、社員間の交流の場や災害に備えて本社のバックアップオフィスの機能も有する施設です。

今後、当社はこの施設を活用し、集中的で効率的な人材育成と技術開発の強化を進めております。

2. 施設の概要

- (1) 名称: 日特建設株式会社 蓮田総合センター
- (2) 所在地: 埼玉県蓮田市駒崎1772-1
- (3) 延床面積: 2,999.35㎡
- (4) 構造・規模: RC造・地上3階建て

3. 設備機能

- (1) 研究開発棟
- (2) 階層別研修室
- (3) 施工指導課の所属員寮
- (4) 研修対象者の宿泊施設
- (5) 震災時の本店・東京支店のバックアップオフィス



蓮田総合センター外観(正面道路より)

● コミュニケーション活動 社員同士のオフタイム活動を支援しています。

当社と社員会は、社員同士の様々なコミュニケーション活動(通称「コミ活」)に対して、活動費補助を行っています。仕事上の関係だけではなく、豊かな人間関係づくりを推進しています。



■全国ボウリング大会開催

当社は、社員間のコミュニケーションを図るため、7月から9月にかけて本店、支店、営業所含めて全国で行ったボウリング大会を支援しました。各地で開催されたボウリング大会終了後は、参加者による懇親会が行われました。また3月には各地の成績上位者を、東京に集めて、全国ボウリング大会を開催しました。大会の参加者には、抽選で賞品が授与されました。当社では、社員間のコミュニケーションを促進するため、今後もさまざまなレクリエーション活動を支援していきます。



■ゴルフ大会 各地で開催

当社のゴルフ愛好者有志は、全国でゴルフ大会を開催しています。4月には本店で24名、北陸支店で18名、5月には本店16名、札幌支店で11名、直轄グラウト部28名、7月には、本店12名、九州支店49名、8月には、名古屋支店で20名、9月には、本店26名、10月には東京支店28名、北陸支店11名、広島支店11名、11月には九州支店38名、12月には直轄グラウト部23名参加によりゴルフ大会が開催されています。本店・各支店で活発にゴルフ大会が開催されています。



■全国でマラソン大会に参加

毎年、各支店の有志が、各地域のマラソン大会や駅伝大会などマラソン大会に参加しています。

東北支店で5月に20名、10月に18名、名古屋支店で4月に10名、1月に7名が参加するなど、日本全国の大会に積極的に参加しています。そのほか海外では、9月にインドネシア共和国で開催された、ASEAN地域最大規模の市民駅伝大会とされる『ジャカルタ「絆」駅伝』に、当社とPT. NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAの社員16名が参加しました。



■各地で様々なイベント開催、参加...

バーベキュー大会、登山、旅行

本店、および全国の本店・支店等で、さまざまなイベント開催、有志によるレクリエーション活動を行っています。本店事業本部施工開発推進部は、4月にバーベキュー大会を開催し、31名が参加しました。東京支店では7月に屋形船遊覧30名、名古屋支店では、6月に登山旅行5名、そのほか新入社員による温泉旅行が参加者10名で行われています。ほかに野球観戦が、東京支店で4月に4名、7月に3名、九州支店で8月に9名、そのほか釣りなど、社員同士で様々なイベントを企画し活動しています。

ICT活用・機械化による生産性向上について

ICT技術の活用や機械化による施工の自動化によって、生産性を向上する取組を行っています。

のり面3次元モデルの活用

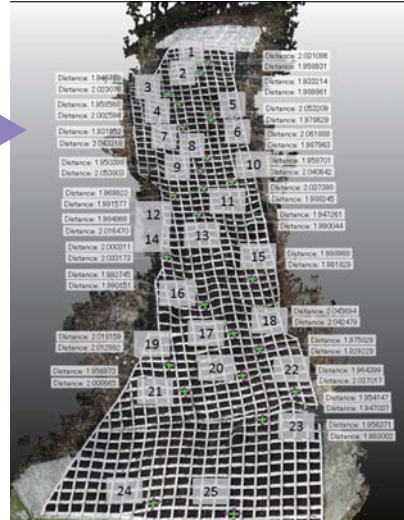
ドローンで撮影した写真から、のり面の3次元データを作成します。これをPCソフト上で操作することにより、のり面にのぼることなく現地状況や出来形を確認したり、任意の断面線やのり面展開図を作成することが出来ます。



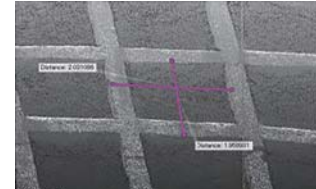
● ドローンによる撮影状況



● 写真から作成した3次元モデル



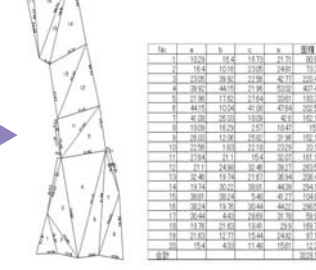
● のり枠の中心間隔の測定



● のり枠の高さの測定



出力されるのり面展開図および求積表



● のり面展開図の作成



従来の出来形測定状況



測定者と撮影者の2名がのり面にのぼって作業します。

植生工の機械化施工

ネッコチップ工法は、伐採木を破碎した生チップ材および表土を含む現地発生土を専用プラントで混合し、高速ベルトコンベアを用いた機械化システムを用いてのり面に撒き出して生育基盤を造成します。これにより従来の吹付での施工に比べ約2倍の速度で施工が可能です。



従来の人力による吹付状況



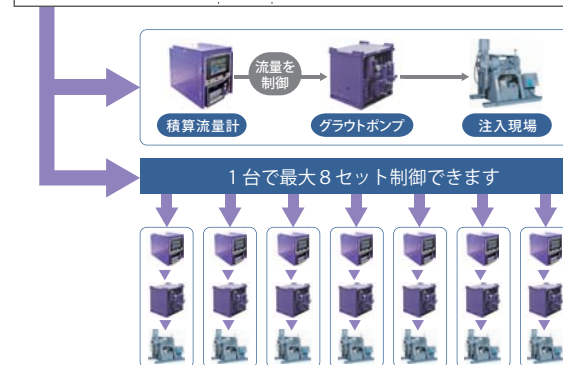
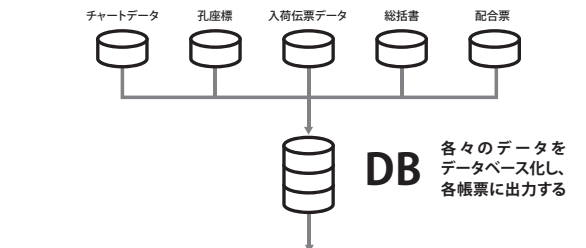
3次元モデルの活用による地盤改良の見える化

地盤改良工の施工履歴データを活用し、施工、出来形管理などの効率化を図るシステムを構築して現場に適用しています。
薬液注入制御・モニタリング装置『Grout Conductor(グラウトコンダクター)』は、1台で最大8セットの流量計およびグラウトポンプを自動制御します。『Grout Conductor』から出力した流量・注入圧力データを『薬液注入データ管理システム』で読み込むことにより、流量や圧力を3次元表示できます。また、日報やチャートの出力ができ、日々の管理作業を省力化できます。

● Grout Conductor による自動制御



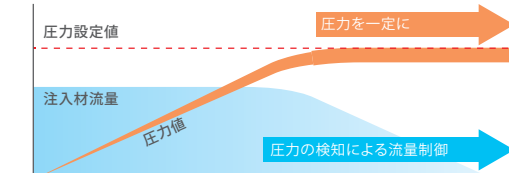
● データを集積して出力



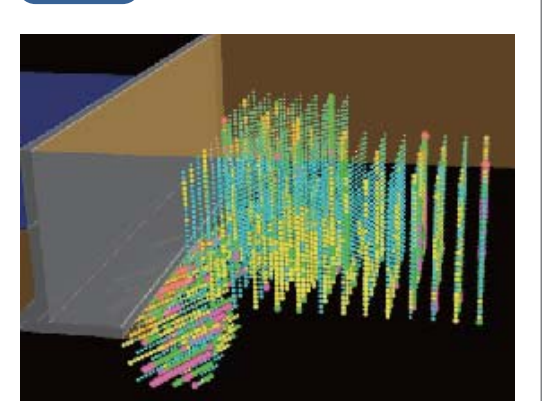
注入制御

圧力を検知し、設定した注入圧力の上限値を超えないよう、自動で注入材流量を制御*します。

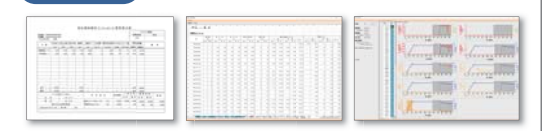
* ダムグラウトでの施工実績を活かした圧力管理注入方式



3D表示



帳票出力 出力される帳票の例



吹付のり枠工の省力化技術「ラクデシヨット」

吹付のり枠工の型枠・鉄筋組立作業が不要で、吹付作業を機械化した省力化技術「ラクデシヨット」を開発しました。
高強度繊維補強モルタルを使用することで鉄筋を不要とし、吹付時にモルタルを急結させることで型枠なしの施工が可能となりました。また、吹付作業を機械化したことで、のり面で行う作業を極限まで削減することができました。



従来の吹付のり枠 F200 相当の性能を有しています。



従来ののり枠吹付状況



のり面上に人力で鉄筋と型枠を組み立てた後、型枠内にモルタルを吹付け、こて仕上げします。

※本技術は、株式会社大林組との共同開発技術です。

●安全・衛生への配慮 安全に安心して働ける職場環境の整備を進めています。

日特建設は、社員、協力業者の社員を含めた工事に関わる全ての人が、安心して働ける職場環境を整備することは企業の重要な責務であると認識し、安全・衛生環境の整備と教育に力を入れています。

■安全衛生管理活動基本計画

1. 安全衛生管理活動基本計画の策定・重点実施項目

日特建設では、本店の安全環境品質本部で安全に関する基本計画を立て、その計画に則り、各支店の安全環境品質部が、現場代理人に安全活動の指導を行います。また、その計画の中で、安全指導の基本方針を3つ設けており、そして比較的事故の多いものを重点実施項目として5つ選び、それに関する事故の発生を特に力を入れて管理しています。

2020年度 安全衛生管理活動基本計画	
安全 第一	
全社統一スローガン	規則、規程、ルールを守り 危険ゼロの職場を確立する
基本方針	人命尊重を基本理念とし、設備と教育の充実を図り安全を確保する
目標	死亡、重大災害ゼロ 法面からの墜落・転落災害ゼロ
重点災害防止項目	●クレーン災害●墜落・転落災害
安全指導の基本方針	(1)『計画及び設備』 安全優先の計画を作成し、基本及び原則重視の設備を設置する (2)『教育』 類似工事の過去災害事例を自身の現場に置換えて学習する (3)『点検と是正』 現状と今後の作業を見据えた点検を行い、原則その場で改善する
重点実施項目(ゆとりを持った作業環境の整備)	
(1)安全指導強化5項目の推進	①適切なクレーン作業方法の周知と徹底 ②法面、高所での墜落防止設備の先行設置 ③圧力ホースの適正な養生 ④ボーリングマシン作業手順の周知と徹底 ⑤無足場工法移動時の災害防止
(2)社員・作業員教育の強化	①墜落防止型災害・すべり、つまずき、転倒災害の事例教育 ②危険感受性の向上教育(新入社員・若手社員の体感訓練、教育資料作成・配布)
(3)パトロールによる改善指導の強化	①パトロールレベルの向上(パトロール者の教育等) ②安全指導強化5項目の点検 ③乗込み1週間パトロールの強化 ④保護具使用ルールの徹底
(4)指差呼称による「確認と一呼吸」と「不安全行動の撲滅」	人払いヨシ！ 安全帯ヨシ！ 玉掛ヨシ！ 通達ヨシ！ ヌガネヨシ！
(5)長時間労働防止対策の強化	①適正な就業管理 ②時間外、休日労働削減への取組強化
日 特 建 設 日 特 建 設 日 進 会	

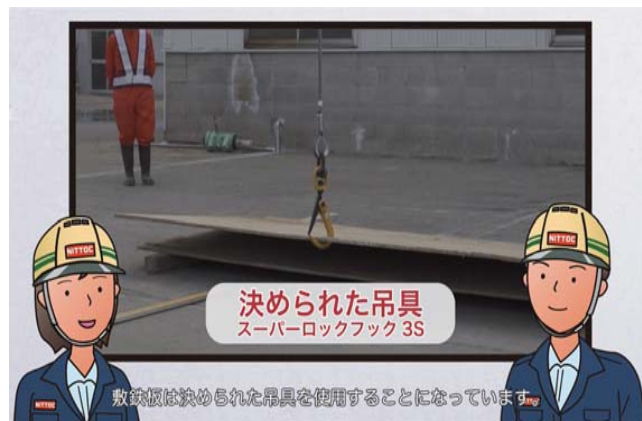
■安全教育の実施

当社では、社員や協力業者社員が業務において事故を起こしたり、けがをしないように、安全活動に必要な様々な教育を実施しています。

1. 新入社員への安全教育・・・当社では毎年4月、入社時に安全教育を行っています。法面実習などを実際に体験して安全設備の使い方を学び、作業員への管理・指導に役立てるよう学んでもらっています。
2. 社員への安全教育・・・当社ではその他、社員に対しても研修を行っています。毎年、フォロー研修や若手研修などの集合教育では安全環境品質部長教育を行っています。また、定期的に各支店で社員に対して安全教育を行っています。
3. 動画を使った安全教育・・・2019年11月よりYouTubeを使った安全教育を始めました。動画はすべて3分以内に短くまとめ、危険箇所と安全作業がよくわかるように、字幕、音声でわかりやすく表現しています。今までのように作業手順書などで、作業の危険を確認するより、簡単に、分かりやすく確認することができます。当社では安全教育や新規入場教育、朝礼、KY、予定外作業時の安全教育時に、活用しています。



新入社員研修(ロープ高所作業に係る特別教育)



動画を使った安全教育

■安全パトロールと協力会社への教育

1. 安全パトロールの実施

日特建設では、本店の安全環境品質本部 主導のもと、各支店の安全環境品質部が主体となって各現場の安全パトロールを行っています。土木工事の現場ごとに作業環境、状況はそれぞれ異なります。その現場の安全管理の状況を、現場代理人だけでなく、本店や幹部の視点からもチェックすることで、事故を発生させない安全な現場・職場環境を目指します。

2. 協力会社(事業主)への教育

事業主(協力会社の社長や幹部)に対して、過去の災害事例に基づく災害防止教育の実施や法改正時の改正ポイントの解説、事業主パトロールの実施率の調査報告などを含めた講習を随時行っています。



安全パトロールの様子



支店の安全大会の様子

■日進会と安全衛生推進大会

1. 日進会(協力会社)と共に安全活動を推進

日進会は、会社並びにその関係会社と会員(協力会社)が相互に提携し、労働災害、第三者公衆災害、交通災害の発生防止活動に取り組み、また、会員相互の意見交換、互助親睦を図り、更に技能の向上に努め共に発展し、会員の経済的地位の確立を期すことを目的にする会です。日進会と当社は共に協力し合いながら、安全活動を進めています。

2. 日特建設日進会、安全衛生推進大会

毎年6月に、当社の安全環境部の社員と全国の協力会社の代表者を集めた安全推進大会を開催しています。2019年度は、6月14日に第48回日進会総会と安全衛生推進大会が開催され、本支店社員および、会員の170名が出席しました。大会では、他の模範となる優秀な安全成績を収めた協力会社10社が表彰されました。



安全衛生推進大会



協力会社表彰

SDGsへの取り組み



● **SDGs** 日特建設はSDGs達成に向けた取り組みを進めています。

日特建設は、安全・安心な国土造りに貢献する会社を経営理念のひとつに掲げて、業務を行っています。SDGsをはじめとする社会課題への取り組みを通じて、当社の経営理念の実現とともに、持続可能な社会の実現に向けて貢献をしていきます。



施工前



施工後

東日本大震災で被災した福島県双葉郡大熊町野上湯の神地内の法面



安全・安心な国土造りに貢献
地震、台風、豪雨などの自然災害から国土を守る
災害に強いインフラ街づくりの基盤を構築
文化財周辺斜面での防災対策
大学と共同で、文化財斜面防災のための技術開発



自然環境にやさしい持続可能な社会の実現
環境に配慮した工法の取り入れ



働き方改革の推進
人材育成・人材開発
安全衛生教育と安全環境の保全



女性技術者の採用増
女性が働きやすい職場環境の整備



コンプライアンスの徹底
リスク管理体制構築とプロセス管理の強化

今回はこれらの中から、環境に関する取り組みを紹介します。

SDGs～環境への取り組み

災害廃棄物（木くず、汚泥）リサイクル

現地発生土とチップ材をニーズに合わせてリサイクルできるよう、複数のリサイクル緑化工法を取り揃えています。

長年にわたり培ってきたこれらのリサイクル緑化の知見を活かし、災害で発生した廃棄物（伐採木、根株、流木等の木くず、汚泥等）をのり面緑化の材料としてリサイクルすることで、廃棄物の低減を目指します。

①
災害で発生した廃棄物から
木くず・汚泥を選別



②
木くずは破碎してチップ
化し、緑化基盤材として
リサイクル

④
のり面の緑化に役立てます



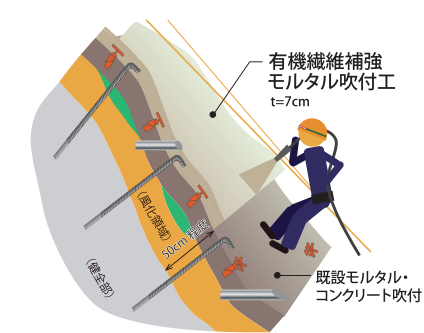
③
のり面に吹付
(写真はネッコチップ工法)



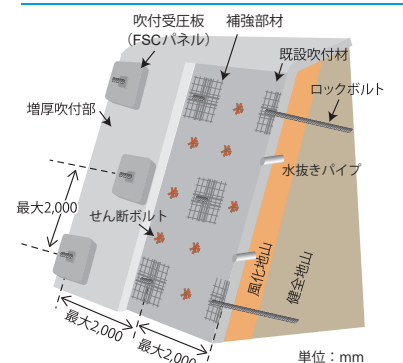
産業廃棄物低減

従来、老朽化した吹付のり面を補修する際は、既設モルタル・コンクリート吹付をはつり取ったうえで新たにモルタルを吹付けるため、はつり取ったコンクリートが産業廃棄物となっていました。**ニューレスプエ工法**および**吹付受圧板工法（FSCパネル）**は、吹付モルタル・コンクリートをはつり取らずに補修補強するため、産業廃棄物を低減できます。

ニューレスプエ工法



吹付受圧板工法（FSC パネル）

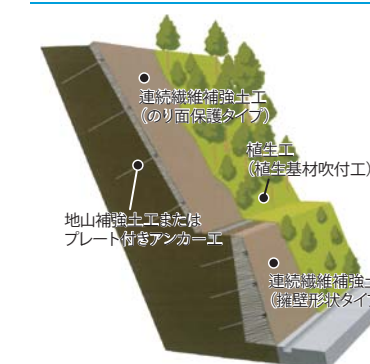


CO₂発生量抑制

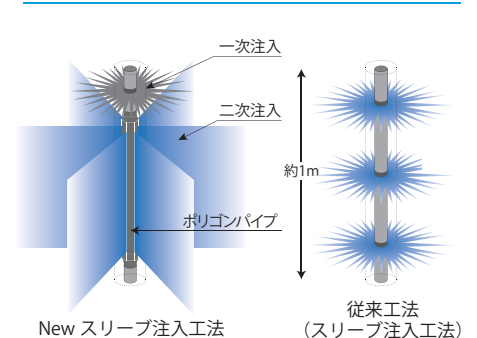
セメントの製造過程では、多大なCO₂を排出します。セメントを使わない**ジオファイバー工法**は、のり砕工法に比べ資材の製造過程で排出されるCO₂量が1/3以下に低減されます。

New スリーブ注入工法は、従来工法よりも注入区間長が長く浸透性能が高いため注入間隔を広くでき、注入孔数が最大で1/4に削減できます。そのため工期短縮が図れ、施工機械から排出されるCO₂量を低減できます。

ジオファイバー工法



New スリーブ注入工法



現場紹介-1

〇●〇

当社は、「環境防災」「維持補修」「都市再生」の分野で、社会ニーズに応える新技術を生み出し、安心・安全で豊かな社会づくりに貢献しています。そして、私たちにできる仕事をしっかりと着実にすることも、震災復興及び防災・減災への貢献になると考えています。

● 北海道胆振東部地震 復旧・復興への取り組み

■ 吉野地区その2 (第1～3工区) 災害関連緊急治山工事 (北海道勇払郡厚真町)

2018年9月6日に発生した胆振東部地震により崩落した法面の保護工として現場吹付法枠工、植生シート設置工を行いました。吉野地区での胆振振興局発注分は、法枠工が約20,000㎡、植生シートが約31,500㎡あり、そのうちの法枠工が15,000㎡、植生シートが23,000㎡を当社で施工しました。

[発注者:北海道胆振総合振興局 注文者:草塩・中塚・西江 地震災害復旧工事特例共同企業体]

概要:現場吹付法枠工 (F200) 植生基材吹付工 植生シート設置]



施工前



完成後

■ メナの沢川災害関連緊急砂防工事 (繰越) (北海道勇払郡厚真町)

2018年9月6日に北海道胆振東部地震が発生した地域において、次の出水による下流の土砂災害を防止する事を目的とし砂防堰堤工 (H=7m、L=101m) が計画され、それに伴い基礎工として地盤改良工事 (パワーブレンダー工法 V=9,800㎡) を実施しました。現場近傍には民家があったため、大型重機の搬入出時は日の出と共に行い、細心の注意を払い施工しました。

[発注者:北海道室蘭建設管理部 注文者:成興・丸博野沢地震災害復旧工事特例共同企業体]

概要:パワーブレンダー工法]



施工中



施行中

● 東日本大震災 復旧・復興への取り組み

■ 大槌町安渡 (あんど) 地区復興工事 (岩手県上閉伊郡大槌町)

2011年3月11日に発生した東日本大震災により大きな被害を受けた大槌町の復興工事として、インフラの整備、土地区画整理事業 (170戸)、高台への防災集団移転促進事業 (91戸) 等を行い、2019年9月に完了しました。

[発注者:大槌町 請負者:前田建設工業・日本国土開発・日特建設・パスコ・応用地質共同企業体]

概要:(安渡地区) 土地区画整理事業:170戸 防災集団移転促進事業:91戸]



施工中



完成後

● 復旧・復興への取り組み

■ 福岡蔵本道路改良工事 (宮城県白石市)

2019年10月の台風19号災害により、山形県と宮城県をつなぐ幹線道路である国道113号線が路肩崩落し、通行止めとなりました。200 t クレーンを使った親杭打設・アンカー打設を行い、施工開始から1.5カ月で道路を復旧しました。

[発注者:宮城県大河原土木事務所 注文者:株式会社 本田組 概要:親杭打設、アンカー打設]



施工中



完成後

現場紹介-2

〇●〇

当社は、「環境防災」「維持補修」「都市再生」の分野で、社会ニーズに応える新技術を生み出し、安心・安全で豊かな社会づくりに貢献しています。そして、私たちにできる仕事をしっかりと着実にすることも、震災復興及び防災・減災への貢献になると考えています。

● 復旧・復興への取組み

■ H30吉野地区(その3)防災工事(神奈川県相模原市)

相模原市緑区吉野地区の国道20号は、大雨の際には通行規制区間となります。そのため、大雨の際にも安全に通行できるための道路整備の一環として、のり砕工やニューレスプ工法を施工しました。

[発注者:国交省関東地整相武国道事務所 概要:仮設防護柵設置工、落石防護柵設置工]



施工前



完成後

■ 令和元年度 三遠南信此田地区道路建設工事(長野県飯田市)

延長約100kmの高規格幹線道路である三遠南信自動車道の整備により、県境を越えた広域ネットワークの形成が期待されています。当社は、道路拡幅のための補強土壁の基礎地盤の改良工事を施工しました。

[発注者:国土交通省中部地方整備局飯田国道事務所 注文者:北沢建設株式会社
概要:Newスリーブ注入工法、Grout C inductor]



施工前



施工中

● 災害時の応急対応

■ 香坂地区災害復旧工事(長野県佐久市)

2019年10月12日に長野県を通過した台風19号で上越自動車の一部の法面が地すべりにより崩れ、10月14日に通行止めになりました。当社は依頼を受け、緊急対応工事として、約2,500mにわたり、緊急水抜き工事とディープウェルを行い、10月23日に対面通行で通行止めの解除に貢献しました。その後RC集水井+集排水ボーリング工事を実施し、4月に全車線開通しています。

[発注者:東日本高速道路(株) 注文者:大林組 概要:水抜きボーリング、集水井戸、ディープウェル]



施工中



施工中

■ 中国自動車道 千代田管内のり面復旧工事(広島県安芸高田市)

2018年7月の豪雨により中国自動車道の千代田IC～高田IC区間の盛土斜面が崩壊しました。当社は応急復旧工事として、本線部の施工(法面整形・残土搬出、水抜きボーリング工他)を2018年7月～2018年8月初旬まで集中的に施工し、本復旧工事を2018年8月～2019年4月まで行い完了させました。

[発注者:西日本高速道路株式会社 概要:土工、かど工、水抜きボーリング工]



施工中



完成後

● 海外展開について

インドネシア共和国は人口2.5億人を抱え、高い経済成長を続けています。しかし、交通渋滞が常態化するなど、インフラについてはいまだ未整備の状態です。

そこで当社では成長戦略の一環として、高い成長を続けるインドネシアのインフラ工事の受注を目指していきます。またインドネシアだけにとどまらず、成長する東南アジア地域のインフラ工事の受注も目指します。

■ インドネシアの子会社PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA

当社は、2012年9月にジャカルタ駐在員事務所を設け、現地法人設立の調査などを続け、そしてPT PANCA DUTA PRAKARSAとの間で、インドネシア共和国国内における建設事業を行う合併会社を設立することを決議し、2015年10月に、日特建設株式会社とPT PANCA DUTA PRAKARSAとの間で合併契約を締結しました。その後PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAを設立し、2016年4月より営業を開始し、4年が経過しました。

当社は、設立した連結子会社PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAにおいて、インドネシア共和国国内のインフラに関する法面、地盤改良などの専門工事の受注に向けた受注活動を行っています。

合併会社の概要

- (1) 商号: PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA
- (2) 代表者: 松本 直
- (3) 所在地: インドネシア共和国 南ジャカルタ市
- (4) 営業開始年月: 2016年4月
- (5) 事業の内容: インドネシア共和国国内における建設事業
- (6) 決算期: 3月期
- (7) 資本金: 51,000百万インドネシアルピア (約388百万円)
※インドネシアルピア=0.0076円で計算しております。
- (8) 株主構成: 日特建設(株): 65%、PT PANCA DUTA PRAKARSA: 35%

住所:
GENERALI TOWER GRAND RUBINA BUSINESS PARK 16th
Floor Unit G, Kawasan Rasuna Epicentrum Jl. HR Rasuna
Said, Jakarta 12940, Indonesia
TEL.62-21-2994-1582
FAX.62-21-2994-1991

PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA ホームページ

<https://www.nittoc-id.co.id/>

● P R活動について



当社はインドネシアに進出してまだ日が浅く、様々な機会を通じて当社を知っていただく必要があります。学会へのブース出展やインドネシア国内ゼネコン等への技術紹介プレゼンテーションなどPR活動を積極的に行っています。



● 安全大会について



安全大会の様子(全社員・作業員)

毎年1回、全社員・作業員を集めて安全大会を開催し、安全意識の向上を図っています。
2019年6月28日、「一体感、信頼、尊重」をテーマに、ボゴールのビレッジリゾートで安全会議を開催しました。すべての作業活動での安全安心をすべての従業員に望みます。健康と安全は従業員の社会保障や福利を向上させるために重要であるが、建設の進捗にもプラスの影響を与えます。このイベントで出席者は、NITTOCおよびPT NCIプロジェクトの過去の事故事例についても学びました。これにより別プロジェクトでの同様事故を防止できると期待されます。さらに2018年度の安全パトロール評価により、現場技術者・作業員それぞれ2名に安全賞を贈呈しました。

● 社員教育について



■ 日本でのスタッフ研修

2019年8月、我々の安全・技術スタッフを、NITTOCの安全管理やプロジェクト管理について学ぶため、さらには当社の建設技術のため日本に派遣しました。なぜなら安全の重要性を全てのスタッフに理解させるため、また全ての現場でゼロアクシデントに全力で尽くすためであり、そのために我々はスタッフに、安全管理と土木技術者の両面で優秀なスタッフへと成長させるための研修を提供しました。



■ 現地でのスタッフ研修

2019年度内、建設のHSE (Health Safety Environment) トレーニングおよび認定プログラムである「AK3 Konstruksi」に参加するためにスタッフを1名を派遣しました。我々は安全管理のハイクオリティを満たすためにスタッフの安全管理能力を高める教育をしています。



■ 管理スタッフのプロジェクト現場訪問

PT NCIジャカルタ事務所で働いている従業員が、ジャカルタ市外のプロジェクト現場を訪問しました。管理部門と現場のコミュニケーションを構築することを目的としています。これにより常にオフィスで働く管理部門は、現場の状況や状態を肌で感じることができます。

● コミュニケーション活動について

レクリエーション活動を活発に行い、社員の一体感の醸成を図っています。



■ 社員とその家族が参加したレクリエーションの開催

2019年11月PT.NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA 4周年に合わせて、ジャカルタ アンチョールのオーシャンドリームで開催しました。この集いには、日本人・インドネシア人のスタッフとその家族が、総勢91名が集まり、食事、ゲーム、抽選会を楽しみ、懇親を深めました。



■ ジャカルタ「絆」駅伝2019に参加

2019年9月、インドネシアと日本との交流促進のために毎年開催されるチャリティーイベント「ジャカルタ「絆」駅伝」へ2019年も引き続き参加しました。今回は日本人とインドネシア人の組み合わせ4チーム、16名が参加しました。イベントでの協力精神が、仕事上でのチームワークに良い影響を与えていると思います。

海外工事紹介

インドネシア共和国では、駐在員事務所開設から、子会社設立を経て、着実に施工実績を積み重ねています。インドネシアで手掛けた工事をご紹介します。



■アサハン第3水力発電所工事
Asahan No.3 Hydroelectric Power Plant

水力発電所新設に伴う法面保護工事です。
施工場所は北スマトラ島

発注者 : PT PLN
注文者 : Shimizu - Adhi Karya JO
工事内容: フリーフレーム工、モルタル吹付
工事期間: 2019年9月～工事中

■バリクパパン製油所内のり面工事
RDMP RU-V Balikpapan

既設製油所内の法面保護工事です。
施工場所は東カリマンタン

発注者 : PT Pertamina RU V Balikpapan
注文者 : PT Bahana Cipta Internusa
工事内容: モルタル吹付
工事期間: 2019年11月～2020年1月



■インドネシア国 中層混合処理工法による地盤改良効果の普及・実証事業
Cement Soil Mixing Demonstration Work

インドネシア国における中小企業海外展開支援事業です。施工場所はドゥマイ

発注者 : JICA
注文者 : PT. HUTAMA KARYA, YBM Co., Ltd.
工事内容: GI工法による中層混合処理
工事期間: 2019年6～7月



■パティンバン新港建設工事
PATINBAN PORT DEVELOPMENT PROJECT PACKAGE1

パティンバン港における鋼管杭と桁の接続ソケット部の注入工事です。
施工場所は西ジャワ州スバン

発注者 : インドネシア運輸省
注文者 : Penta - TOA - Rinkai - PP - WIKAI JO
工事内容: 充填注入工
工事期間: 2019年8月～工事中



海外社員の紹介

海外研修や語学研修、海外工事現場への出向、インドネシア人等の外国人技術者の教育を通じ、国際的な人材育成を図っています。当社に勤務する海外社員のご紹介です。



私は大学卒業後、パキスタンで法面プロジェクトに参加しました。法面分野で自分を探求するには理想の現場でした。このプロジェクトは、ロックボルト、グラウンドアンカーなどの法面技術で構成されていました。来日したばかりなので、日本語を覚え、日本の生活環境に早く順応することです。そして、私の目標は、これまでの経験を活かし、やりがいのある環境でさらなるスキルと能力を追求し、当社の発展に貢献することです。

ジャベッド・クルム (JAVED KHURRAM)

所属:海外事業部 工事部 工事課 国籍:パキスタン



私は2016年に大学を卒業し土木技師の資格を取得しました。パキスタンではグラウンドアンカー、ロックネットなどの法面工に携わっていました。これからは、新しい技術を学び、できるだけ多くの知識を身につけたいと思っています。そして、日本の人とコミュニケーションを図り協力して、当社の更なる発展に貢献するため私のスキルと経験を役立たせていきたいと思っています。

カシム・ムハammad (QASIM MUHAMMAD)

所属:海外事業部 工事部 工事課 国籍:パキスタン



私は2015年に大学を卒業し、パキスタンでは、商業建築プロジェクト、地下鉄プロジェクトなどに従事しました。当社は、法面工でグラウンドアンカー、ロックネットファイバーモルタル吹付など様々な技術を使い工事をするので、私の知識と能力を大幅に向上させてくれます。当社の技術で人々が安全・安心で快適に過ごせるよう努力したいと思っています。様々な技術を学べる当社で働けることを嬉しく思います。

アハammad・ナイーム (AHMAD NAEEM)

所属:海外事業部 工事部 工事課 国籍:パキスタン



2015年から2016年までパキスタンで土木技術者として働いていました。知識を高め、スキルを向上させるため、当社でやりがいのある仕事をしたいと思い来日しました。そのためには、日本語を覚え、日本の生活に早く慣れ、日本の技術をより多く学びたいと思います。そして今、安全で安心な国土づくりに貢献する当社の一員に加わったことをとても嬉しく思います。

ジャファー・ムハammad (Jaafer Muhammad)

所属:海外事業部 工事部 工事課 国籍:パキスタン

● 環境方針

日特建設は、環境・防災・都市再生・維持管理関連の専門技術を得意とする総合管理力のある会社として、広く社会に貢献することを経営理念のひとつに掲げています。

技術開発本部は、この経営理念に基づき、下記の事項を環境方針として定めています。

1. 技術開発本部は、地球環境の保全活動を事業活動の一つとして位置付け、地球環境への負荷低減を目指し、環境マネジメントシステムの改善を図るとともに継続的向上に努める。
2. 限りある資源の有効利用と環境への負荷低減に向けた資源循環社会と、人を含む地球上の生物の環境共生型社会の構築に向けた研究・開発及び設計・検討を進める。
3. 廃棄物量低減、リサイクル率向上、省資源、省エネルギー、生態系保全、景観保全、環境保全型商品利用の促進、気候変動への適応などを目指した活動を推進する。
4. 環境関連の法規制、協定書、顧客及び業界の要求事項を遵守し、環境保全に関する社会的責務を積極的に果たす。
5. 技術開発本部の要員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努める。
6. 顧客及び地域社会との協調を図るため、必要に応じ環境方針及び環境保全活動の実施状況を公開する。

●ISO14001を活用した環境マネジメントシステム

当社は、1999年2月に各環境関連部署の環境管理推進委員会から構成される「環境委員会事務局」を、1999年10月に環境管理責任者を委員長とする審議機関「環境委員会」を設置し、同年11月に「日建建設株式会社技術開発本部環境方針」を発表しました。その後、環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年3月、技術開発本部としてISO14001環境マネジメントシステムを審査登録し、現在下記の環境目的を掲げています。

1. コピー用紙の使用量を減らし、環境への負荷を低減する。
2. 一般廃棄物のリサイクル率を高めて、環境への負荷を低減する。
3. 研究・開発業務実施要領で示された適用範囲のうち、技術開発本部の環境目的に示した著しい環境側面（16環境側面）を有する研究開発テーマを実施する。
4. 設計・検討業務実施要領で示された適用範囲の設計・検討業務について、
 - ①省エネ
 - ②省資源
 - ③大気質保全
 - ④水質保全
 - ⑤自然環境保全
 - ⑥地盤環境の保全
 - ⑦掘削量の削減
 - ⑧廃棄物の削減
 - ⑨廃棄物のリサイクル

上記9項目に該当する場合は確実に配慮する。

その後、6回目の更新審査(2015年版への移行審査を含む)を経て、20年間の運用を続けています。

● 環境保全効果

今年度の環境保全効果は、下表のようになりました（削減量は前年比）。産業廃棄物量は、埼玉試験所廃止により増加しています。今後も、廃棄物の削減、リサイクル率の向上に努め、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続していきます。

効果の内容	指標の分類	単位	削減量	2019 年	2018 年	2017 年	2016 年
事業活動に投入する資源に関する効果	コピー用紙使用量	枚	3,000	148,000	151,000	136,500	135,000
	電気使用量	千 kwh	21	480	501	522	532※
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	温室効果ガス排出量	t - co2	16	222	238	254	261
	産業廃棄物量	m3	4	170	174	11	0

※2016年度は、本社移転に伴い同じフロアに他部署と同居することとなったため、フロア全体の電気使用量を用いたことにより前年比増となった。

● 2019年度 環境目的・目標達成状況

当社の環境マネジメントシステムは、環境への有害性評価を行いその低減を図るだけでなく、環境への間接的な有益性を評価するのが特徴です。環境に有益な工法を研究・開発、設計・検討することを通して、環境への負荷を低減する取り組みを行っています。

管理項目	環境目標	検証方法	達成状況
事務業務	コピー用紙削減・節電・エコキャップ運動を継続。既に定着しているため特に数値目標は設定しない。	資源廃棄物管理表、エコキャップ運動推進表により検証。	【コピー用紙使用量】 2018年度151.0千枚 2019年度148.0千枚 前年比2%down
研究・開発業務	各研究・開発テーマの計画書に基づいて実施する。業務に際しては、著しい環境側面(有害性)に配慮して、周辺環境への影響を最小限に留めるものとする。	研究開発進捗管理表により検証。埼玉試験所の状況を現地確認。	環境に大きな影響を与えるような現象は発生していない。
設計・検討業務	環境・防災・都市再生・維持管理等の専門技術を活かし、環境側面に配慮した設計・検討を行う。	専用の技術営業管理システムのデータにより検証。	設計・検討した案件は確実に配慮している。

社会貢献 -1

〇●〇

当社は、社会から信頼される企業を目指し、様々な社会貢献活動を推進しています。
その中から主なものを紹介します。

● 現場見学会

地域市民の方々に当社担当の工事等を理解していただくために、現場見学会等を各地で開催しています。



■札幌支店 樋門漏水対策工事現場見学会

(北海道 2019年6月)

帯広開発部発注工事の樋門漏水対策工事についての工法勉強会を兼ねて、現場見学会を実施し、開発局職員20名、河川防災センター職員3名の計23名が参加しました。施工目的や工事の流れ等を工法看板を使用して説明し、その後実際の施工状況を2班に分かれて見学しました。ここ最近の開発局帯広開発建設部管内でのグラウト工事の施工がなかったため、質問も活発にされて盛況のうちに終了となりました。



■北陸支店 深礎杭施工・地盤改良工現場見学会

(石川県 2019年9月)

富山大学都市デザイン学部の「自主プロジェクト 未来の材料・構造を考えよう!」の活動の一環で行われ、参加者は学部教授3名、学生9名でした。場所は「北陸新幹線 細坪橋梁工事」で、深礎杭施工現場及び地盤改良工(GIコラム工法)施工現場を案内し、質疑応答を交え工法説明等を行いました。来年度も見学会の依頼があり、今後も継続的に行う予定です。



■大阪支店 橋梁コンクリートはく落防止対策工事

現場見学会(香川県 2020年1月)

橋梁のコンクリートはく落防止対策工事で、香川高等専門学校を招き、現場見学会を開催しました。この見学会は、香川高等専門学校が現場である国道11号線に近かったこと、そして補修分野を学んでいる学生が足場内での作業状況を見学したいとの希望により、学校から発注者である西日本高速道路に依頼が届き、実現しました。当日は、学生と引率の教員含め13名、発注者3名が参加しました。



■九州支店 災害復旧現場及び法面補修現場見学会

(福岡県 2019年10月)

将来の土木技術者を目指す福岡県立浮羽工業高等学校在校生8名および教員2名を招き、福岡県内の災害復旧現場及び法面補修現場で現場見学会を開催しました。併せて法面用安全帯を実際に装着する実務的な体験実習も行いました。

はじめに社員のお手本を見た後に、学生たちは、指導受けながら安全帯を装着し親綱を使って、法面を登りました。

参加した学生からは、このような実習は初めてで楽しかったとの感想をいただきました。

● 地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動も積極的に推進しています。



■東北支店 海岸防災林再生メンテナンス活動

(宮城県 2019年4月)

東日本大震災による津波で流失した海岸防災林の再生活動です。植樹してから早くも4年が経ちました。植樹した木々は、場所によって生育が違い、高いところでは2mほど、低いところで1.5mほどの成長となっていました。肥料をまいたり、下草を刈るなどのメンテナンス作業を東北支店の社員10名で行いました。今後も定期的にメンテナンスをして、立派な防災林になるまで、活動を続けていく予定です。



■東北支店 第13回富沢市民センターまつり

駐車場誘導活動(宮城県 2019年9月)

支店のオフィスの隣にある富沢市民センターにおいて毎年行われている富沢市民センターまつりに今年も協力させていただきました。まつりへお越しになった皆様に、支店オフィスの駐車場(20台分)を提供しました。

当日は駐車場で、当社の社員3名の駐車場の誘導員や案内係を行いました。このように定期的に協力していくことで、地元地域に貢献していきます。



■北陸支店 ECHIGO 棚田サポーター

(新潟県 2019年6月)

ECHIGO 棚田サポーターとは、棚田を愛し、地域の方々と一緒に棚田を守るため、新潟県にある県農地部職員を中心に結成されたグループです。その目的に賛同した北陸支店の有志は、今年も新潟県各地の棚田の草刈り、清掃に協力しました。2019年度は、6月と8月に2回、参加しました。

【主な活動内容】

①佐渡市 岩根沢地区 棚田の用水・排水路の草刈り、
江さらい、溜池周辺整備



■広島支店 山口県防災・砂防ボランティア協会

における砂防施設点検活動(山口県 2019年11月)

土砂災害を未然に防ぐことを目的として、毎年行われている防災・砂防ボランティア協会による砂防施設点検活動に今年も参加しました。点検活動は、山口県土木建築部砂防課と協力し、県内の土砂災害危険箇所である急傾斜地や地すべり防止区域、そして砂防施設などで実施しました。

今回も県土木部、協会関係者の方など50名以上で山口県内の砂防ダムを3~4名のグループに分かれて点検しました。点検は、前回の点検箇所に著しい変状が起こっていないかなどを確認していきましました。

地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動についても積極的に実施しています。



■本店、東京支店ほか 献血活動に協力 (東京都 2019年7月)

昨年に続き、東京都赤十字血液センターによる献血を本店の会議室において行いました。当日は、本店所属の社員以外にも、同ビル入居の東京支店、直轄グラウト部、海外事業部、緑興産(株)の社員が呼びかけに応じ、献血を行いました。午前10時開始から、社員が次々と訪れ、血圧の測定、続いて医師による問診が行われ、確認がとれた社員から順次、献血が行われました。今回の献血の協力者は、昨年を超える50名でした。この献血活動は、今後も継続して実施します。



■大阪支店 地域清掃美化活動

(香川県 2020年2月~3月)

香川県高松市中心部での、橋梁のコンクリートはく落防止対策工事で、7橋梁25径間の作業を行う箇所において、道路の清掃活動を行いました。清掃活動は、作業終了後の夕方に社員と協力業者社員の総勢5~10名で行いました。

道路沿いの為、ゴミはペットボトルやたばこの吸い殻が多数集まりました。また清掃時は、ガードマンを配置し、安全に配慮しながら行いました。



■広島支店 「クリーン太田川」河川一斉清掃

(広島県 2019年7月)

7月28日に行われた「クリーン太田川」河川一斉清掃に清掃活動ボランティアとして参加しました。この「クリーン太田川」はクリーン太田川実行委員会(国土交通省・広島県・広島市・各自治体等)主催で行われている太田川水系37河川の一斉清掃で、1993年の初回から数えて今回は27回目の開催です。今回は、当社参加者15名のほか総数17,000名で行われました。

当日は、蒸し暑い日でしたが、河川周辺の公園の空き缶やビニールゴミ等を集めました。



■九州支店 第9回和白干潟アオサ清掃活動

(福岡県 2019年10月)

福岡市東区にある国の鳥獣保護区、和白干潟に大量に発生するアオサの清掃活動に参加しました。

アオサは大量に発生すると干潟一面を覆い、アサリ等の干潟の生きものは住みにくくなります。そこで、毎年実施されるアオサの清掃活動に、当社6名が、九電商友会土木建築工事部会・セメント部会の参加者総勢390名とともに参加しました。あおさの量は昨年に比べ少ないようでしたが約5.7tのアオサを回収しました。この清掃活動に4年続けて参加しています。今後も継続して参加していきます。

清掃活動等

現場周辺や支店周辺の清掃活動を積極的に行っています。



■東北支店 桂浜海水浴場清掃活動 (秋田県 2019年6月)

秋田県ジオファイバー協会の会員と共に、秋田市桂浜海水浴場の清掃活動を行いました。当社の社員4名を含めた24名が参加しました。

清掃活動は作それぞれ班ごとに分かれ、背の高く茂った雑草の草刈りや、空き缶、ペットボトル等のごみ拾いを行いました。海水浴シーズン前に周辺をきれいにする活動に参加でき、地元の環境整備に微力ながら貢献させていただくことができました。なお、この活動は、2007年から13年続いて参加しています。今後も継続して参加していきます。



■東京支店 通学路、歩道橋の除雪

(神奈川県 2020年2月)

2月の降雪時、通学時間前に小学校前の歩道橋の除雪を当社社員3名と協力業社2名の計5名で行いました。

作業は朝7時より各班に分かれ、除雪作業を行いました。当日は、廊下部分と、階段部分のほか、学校から歩道橋までの道路の除雪を行い、また除雪後は、凍結しないように凍結防止剤を除雪箇所に散布し作業を終了しました。



■名古屋支店 カーブミラー・クリーン作戦

(静岡県 2019年8月)

静岡営業所所属社員1名は、地元業者とNPO法人の計140名と共に、掛川市と御前崎市で、地域の清掃・美化活動としてカーブミラーの清掃作業を行いました。

当日は、開始前に出発式を行い、そこで地元警察署の交通課長にご挨拶いただきました。そのあとに各班4名に分かれて、カーブミラーの清掃を行いました。この日は全部でカーブミラー2,300本の清掃を行いました。

社会福祉活動

当社は、パラスポーツの振興・普及活動に協賛しています。



■シーズアスリート法人会員の加入 (2019年8月~)

2019年8月より「障害者スポーツ選手雇用センター(シーズアスリートC's Athlete)」の法人会員に加入しました。

シーズアスリートは株式会社麻生のグループ会社である株式会社アソウ・ヒューマニーセンターが、障害者の新しい雇用開発と障害者スポーツの振興を目的に設立した団体です。またオリンピック(パラリンピック)への出場を目指している選手を支援しています。当社は、この主旨に賛同し、シーズアスリートの活動を支援、協賛しています。